

訪問看護ステーションなるざリハビリサービス  
〒910-4103 あわら市二面2丁目302番地  
TEL: 0776-77-2282  
ホームページ: www.naruzajp/

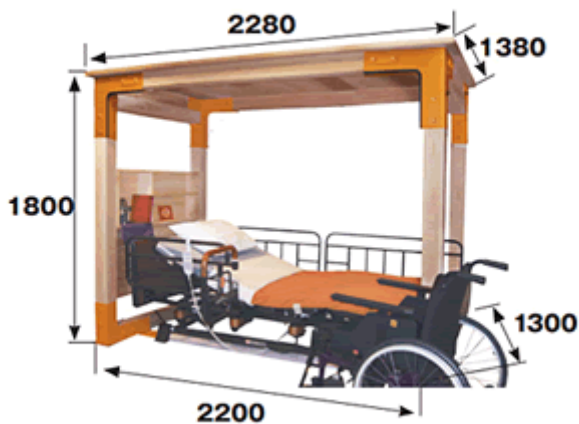
災害が起きた時、高齢者の中でも特に要介護者や認知症の方は、一般の方が必要とする基本的なアイテムに加えて、何らかの支援が必要なおことが多いです。

今回は、いざという時に困らないように用意しておきたいものや、配慮しておくべきことを紹介していきます。

## 災害が起きる前にできること

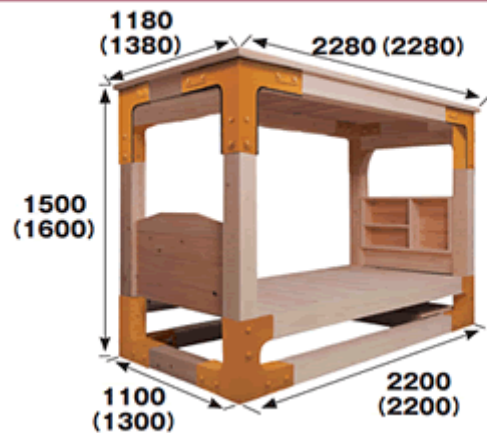
### 1. 福祉用具の点で見る災害対策

#### 介護ベッド用シェルター



総重量: 210kg

#### シングルサイズ (セミダブル)



床高さ: 340  
総重量: 220kg (270kg)

災害の瞬間や、震災後の余震が続く状況で、要介護者の方が自ら身の安全を守るのはとても困難なことです。

これまでの災害対策においても、要介護者は家屋の倒壊やその下敷きになる危険性が高いことから、「家具の固定」、「家具の配置変更」、「耐震リフォーム」などが提案されています。



そのために今実際に訪問リハビリを利用されているお宅のご家族の方が用意したのが、上の写真にある、約65トンの重みに耐える「介護用シェルター」、「耐震ベッド」です。介護ベッドを包むようにも設計されており、現在実際に使用されています。

倒壊する家屋から身を守る手段として、または避難するまでの安全確保の場として、家全体の耐震リフォームをするには気が重い場合、こういった設備の導入も選択肢の一つかもしれません。

これ以外にも、要介護者の方がいる家庭では、災害時でも福祉用具の活用ができるよう準備をすることが重要になります。裏面では、対処法の一環を紹介していきます。

## 2. 災害時・停電時の福祉用具や

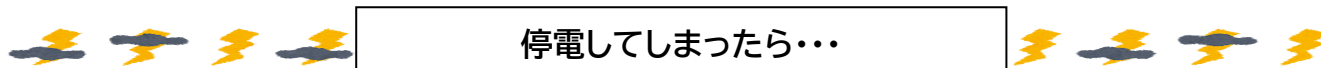
### 医療機器とその対処法

福祉用具は、「ご本人の不自由な動きを助ける」という大きな役目があります。

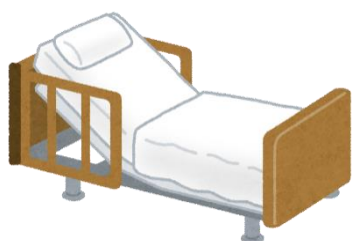
そのため、停電でその機能が使えなくなると、ご利用者本人に大きな支障をきたす可能性があります。



特に電気が必要な福祉用具を使っているお宅では、停電時の対策を確認しておくことが大切です。



#### ●電動介護用ベッド:手動で操作する方法を取扱説明書で確認しておく



もしも、ベッドが背中を上げたままの状態動かせなくなった場合、ご自分で動けない方であれば お尻に体の重さが集中し続け、床ずれが発生するなど体への負担も大きくなってきます。

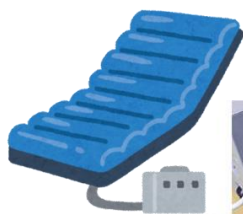
そんな時、福祉用具のメーカー側に、緊急時の対応策が用意されている場合があります。

例)ベッドの背もたれ裏にあるモーター部分のピンを外し、手動でベッドを寝た姿勢に戻す。

例)「停電時に手動で操作できるハンドル」が付属している。 など

ただし、ベッド上にご利用者が寝たまま急に手動にすると危険なため、できれば作業をする人数は「背もたれを支える役」・「ピンを外す役」の複数人必要です。

#### ●エアマット:停電しても、空気漏れが起きないようにする



最近のエアマットは、約2～3時間以内の停電の場合、そのまま使用できます。約3時間以上の停電が続く場合、空気の流出を防ぐための対策を必要とします。



##### 手順

1. 送風チューブの途中を、つぶれるまで折り曲げる(ポンプから外さずに行ってください)
2. ガムテープ、ビニールひもなどで、折り曲げた付近をしっかりと留める(結束部から空気が漏れてないか確認してください)

今後のために

人工呼吸器、吸引器、HOT(在宅酸素療法)の酸素供給装置など、コンセントにつないで使う福祉用具や充電式で使う福祉用具は、まだまだたくさんあります。

災害時のくわしい対応方法については、事前<sup>に</sup>取扱説明書を読みこみ、または介護用品や福祉用具のレンタル・販売店やメーカーに事前確認しておきましょう。